



フェアトレードを普及する為に～熊本から全国に～



熊本学園大学附属高等学校2年 41班

研究の目的・背景・仮説(Introduction)

私たちの班の目的はフェアトレードについてより多くの人に知ってもらうことである。公平貿易証明がなされたフェアトレード商品の利用を促進していると見なされた都市「フェアトレードタウン」に、2011年、日本かつアジアで初めて熊本市は認定された。しかし、フェアトレードを推進する代表的な街であるにもかかわらず、あまり多くの人々がフェアトレードについて詳しく知らないことが調査の結果分かったため、実は身近にあるという事を知ってもらい、この活動の普及に繋がることを願い、この研究テーマにした。

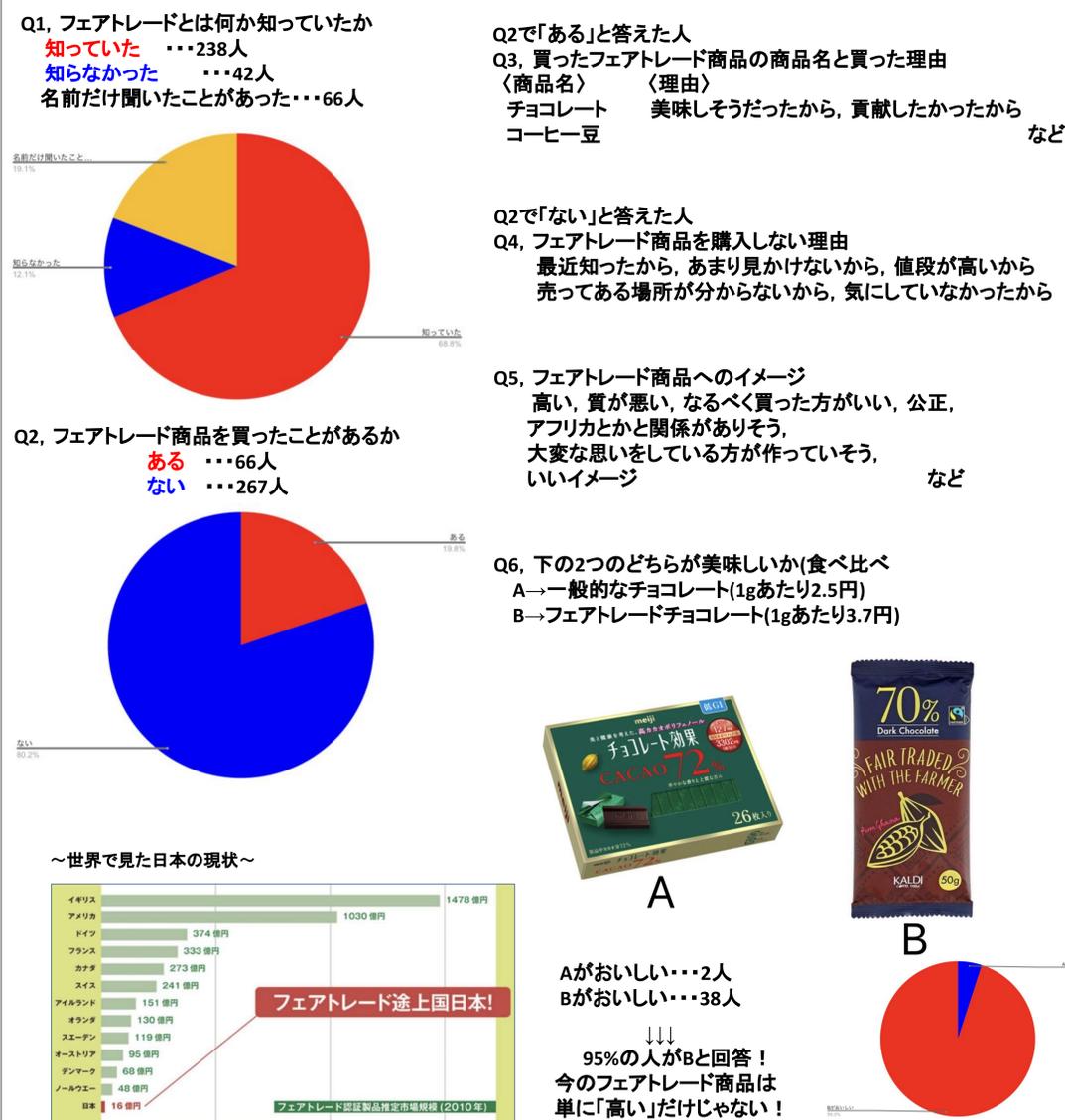
フェアトレード(Fair Trade)とは・・・

貧困のない公正な社会をつくるために、途上国の社会的経済的に弱い立場にある生産者と社会的経済的に、強い立場にある先進国の消費者が対等な立場で行う貿易である。



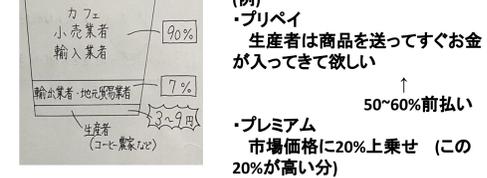
https://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/int_license.php

実施したアンケート結果とセミナーでの学び



～熊本学園大学Fair Trade Cafe,国際交流会館から学ぶ～ ・一般のコーヒー一杯(¥296)だと

↓↓↓ フェアトレード輸入業者側の義務



ドイツ(熊本市と友好都市であるハイデルベルク市)では...

- (考え方) 「持続可能な生活が大事」...95%
- 「家族とのトーク内容がフェアトレード」...80%以上 (教育)
- 「持続可能」と「世界」をテーマに。知識より解説力と表現⇒意見重視! ⇒デモに繋がる
- 言語を学ぶと同時に「持続可能」について学ぶ
- ex)各教科の教科書に社会を学ばせる内容が書かれている (市民の取り組み)
- Fridays for future ドイツ全国の若者が多参加のデモ(50人→30万人)
- イベントの開催 サッカー大会(ボールはフェアトレード製品) 散歩ツアー (歩きながら話す)
- フェアウィーク 年1回全国でイベント など

日本では...あまり普及していないのが現実
 フェアトレード商品どこにあるのか分からない人も多い

コンビニやスーパーなど身近なお店で購入できる
 セブンイレブンにはフェアトレードカカオ使用のチョコレート
 トップバリュにはフェアトレードのコーヒー豆
 KALDIにも多くのフェアトレード商品

世界の国と比べて日本のフェアトレード普及率が低い理由
 について考察した。

考察(Discussion)

結果から分かるように、Q1.フェアトレードについて知っている人は多いが、Q2.フェアトレード商品を買ったことがある人はかなり少ない。このことから、言葉自体聞いたことはあるがフェアトレードに関心がないという人は多いようだ。これらの一因として、義務教育で受けるフェアトレードに関する情報の格差が挙げられる。Q5から読み取れる、フェアトレード商品のイメージの違いや、世界で見たフェアトレード活動の日本の現状を表すグラフから、活動が盛んな国に比べ教材で扱うフェアトレードの内容が浅いことが分かる。それによりフェアトレード活動に対する関心や正しい知識が足りていないと考察した。

行ったこととこれから

私達は、まずはフェアトレードという存在を知ってもらうために、アンケートまた、簡易的なポスターを制作し、配布、また教室に掲示した。これからは、更に学校内での普及のため、昼休みの時間を使っての校内放送、熊本学園大学フェアトレード研究会の指導の下、学校内でのフェアトレード商品の校内販売を計画している。校内販売をする事で、生徒達また、教師の皆様にもフェアトレードに対してのイメージ改善や、より理解が深まる事を期待している。

謝辞(Acknowledgments)

探究を行う上でお力添え頂いた熊本学園大学Fair Trade Cafeのみなさん、国際交流会館のみなさん、アドバイスを頂いた熊本学園大学附属高等学校の先生方、アンケートに回答して頂いた生徒には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

参考文献(Reference)

https://macrobiotic-daisuki.jp/fair-tradenihon-118361.html